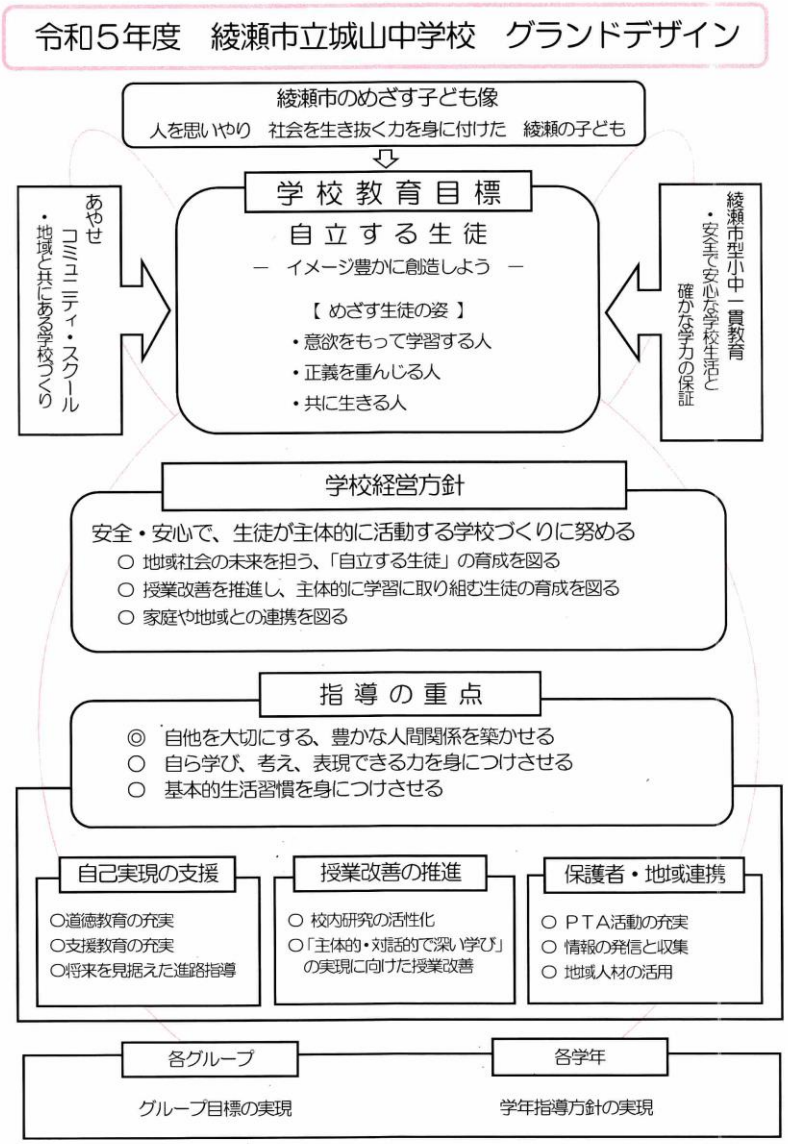
令和5年度　綾瀬市立城山中学校　学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	（学校教育分野）　人を思いやり　社会を生き抜く力を身に付けた　綾瀬の子ども
学校教育目標	自立する生徒　～イメージ豊かに創造しよう～ 【めざす生徒の姿】 ・意欲をもって学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人
学校経営方針 （グランドデザイン）	
今年度の重点目標	◎自他を大切にする、豊かな人間関係を築かせる ○自ら考え、学び、表現できる力を身につけさせる ○基本的生活習慣を身につけさせる

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1　学習指導	学校は、「意欲をもって学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	集計結果から、生徒、保護者、教職員ともに、今年度も約８割から「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価を得ました。しかし、昨年度と比較すると若干ではありますが、全体的な数値は下がっています。これは、日々の授業環境や家庭学習に起因するところが大きいと思われます。教職員も今一度、授業改善への意識を高め、生徒が主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを目指し、確かな学力の向上に努めていきます。
2　教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	集計結果は昨年度と比べ、概ね変わらぬ数値となりましたが、今年度は「積極的に参加しているとは思わない」という評価が若干増えました。今後も健康面の安全を第一に考え、感染症対策や熱中症対策等を講じながら、生徒が主体となる「生きる力を育むこと」を目指した学校行事や生徒会活動、部活動を実施していきます。
3　児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	集計結果から、今年度も生徒、保護者ともに、「人に対してやさしく接していると思う」という評価が９割を超えました。しかし「そう思っていない」と回答する生徒も１割いることに、着目していかなければいけません。学校全体が「やさしさ」で溢れるよう、ソーシャルスキルトレーニングや道徳教育の充実を図り、人間関係づくりに努めていきます。
4　児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	９割以上の生徒が「学校生活を楽しく送っていると思う」と、肯定的な回答をしています。しかし、１割弱の生徒は「学校生活を楽しく送っていると思わない」と、感じています。ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなどの人間関係を深める集団活動を工夫し、生徒に寄り添った指導を行うことで、生徒一人ひとりが充実した学校生活を過ごせるよう、しっかりと取り組んでいきます。
5　児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者の回答について、肯定的な回答は７割以上あるものの、肯定的でない回答は２割以上ありました。いじめの早期発見・再発防止のため、予防的生徒指導のさらなる工夫を検討し、ねばり強く取り組んでいきます。今後も、迅速且つ適切な生徒指導を実践し、すべての生徒が学校生活を安全・安心に送れるよう、学校全体で取り組んでいきます。
6　保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	生徒、保護者ともに健康や体力に高い関心をもっていることがわかります。しかし保護者の「あまり思わない」以下の数値が高くなっていることにも、着目しなければなりません。学校は家庭における生徒の実態を把握し、保護者と連携しながら、食育・保健教育を進めていきます。また、学校内の実践を、「保健だより」や「学年だより」をとおし、広く保護者に伝えることで、学校と家庭の共通理解を深めていきます。
7　安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今年度も昨年度同様、教職員の意識の高さが伺えます。しかし、「あまり思わない」という教職員が一部いることにも着目していく必要があります。今年度の反省を生かし、避難訓練の実施内容について見直しを行っていく等、学校全体で、より「実践的な訓練」を目指していけるように工夫します。また日常的な施設の点検・整備に取り組み、生徒が安全・安心に過ごせる学校施設を維持していきます。
8　支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	教職員の支援教育に対する意識の高さが結果に表れています。学習面の支援においては、ICTを活用した個別最適な学びを実現する課題があります。生徒がよりよい学校生活を送れるよう、生徒との信頼関係づくりに努めるとともに、生徒理解を一層深め、生徒一人ひとりを尊重した支援教育に今後も取り組んでいきたいと思います。
9　組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	集計結果から、９割以上の教職員が肯定的な回答をしています。このことは、校長の学校経営方針のもと、各グループが総括教諭を中心に円滑な活動を行ってきたことのあらわれだと考えられます。しかし、昨年度と比較し「そう思う」と回答した職員の割合が減少し、「やや思う」が増加しました。上記のように、変化が大きな年度であったため、臨機応変な対応に追われたことも事実です。来年度も凡事徹底を意識し、職務にあたりたいと考えます。
10　教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取り組みに力を入れている。	校内研究に対する意識は昨年度より高まりました。本年度は研究テーマを変更したことで『育てたい生徒の姿』がイメージしやすくなり、授業改善に対する意識が高まったのだと考えられます。また、校内研究の班編成を異なる教科ごとのグループとし、教科の垣根を越えて授業アイディアを共有できたことが意識を高める要因と考えられます。来年度以降も授業改善に取り組んでいきます。
11　教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	アンケート結果から、昨年度と全く同じ結果となりました。「指導の工夫をしている」という評価は依然として高いものの、「まったく思わない」と感じている回答も引き続き見受けられます。一方で教職員の意識は「指導の工夫をしている」と感じている割合が増えているので、学校教育目標である「自立する生徒」の育成に向け、各家庭と連携しながら、生徒が自ら考え、主体的に取り組む教育活動をさらに推進していきます。
12　情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者からの「伝えられていると思う」という回答が、８割を超えています。これは、デジタル連絡ツール（Ｃ４ｔｈ）に加え、学校と家庭が情報共有に努めた成果であると考えられます。しかし、一方で２割近い家庭が「あまり思わない」に回答していることから、今後も、デジタル連絡ツールのさらなる活用や毎学期ごとの懇談会、保護者会などをとおして、学校と家庭との情報共有や連携を充実させていく必要があります。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

○学校生活について

９割以上の生徒が肯定的な回答をしているが、学校生活に満足していない１割弱の生徒に着目し、より一層生徒に寄り添った指導が求められていると考え取り組んでいく必要がある。全教職員が一丸となって安全で安心して生活できる学校づくりに取り組んでいきたい。

○保護者との連携について

デジタル連絡ツール（Ｃ４ｔｈ）のさらなる活用と、懇談会や個別面談といった対面での情報共有の両面から、学校と家庭との連携を図っていく必要がある。

○学校教育目標達成をめざした運営組織の在り方について

それぞれの先生が「こんな学校にしたい」、「こんな生徒を育てたい」を共有していける環境づくりをしていって欲しい。そのためには、学校として現状をしっかりと受け止め、校内研究や教職員研修をとおして教職員が主体的に学び合う機会を充実させていく。